

議員全員協議会

日 時	平成31年 1月22日（火） 閉会中	午前 8時55分 開会	午前 10時24分 閉会
場 所	相良庁舎 4階 大会議室		
出席議員	議長 16番 太田佳晴 副議長 15番 鈴木千津子		
	1番 鈴木長馬	2番 濱崎一輝	3番 原口康之
	4番 吉田富士雄	5番 平口朋彦	6番 藤野 守
	7番 大井俊彦	8番 名波喜久	9番 植田博巳
	10番 村田博英	11番 良知義廣	12番 澤田隆弘
	13番 中野康子	14番 大石和央	
欠席議員			
事 務 局	局長 植田 勝 次長 前田 里芳 書記 竹内 直美		
説 明 員			
傍 聴			

署名 _____ 議長

開会の宣告

○議長（太田佳晴君）

皆さんおはようございます。若干早いですけれども、お集まりですので、全員協議会を始めたいと思います。

本日は、鈴木長馬議員が先日の事故の現地見分というんですか、あるということで欠席届が出ておりますので、まず報告します。

2 協議事項 (1) 議会報告会の反省について

ア 総括的報告

○議長（太田佳晴君）

それでは、きょうは議会報告会の反省についてということで、11月に行われました議会報告会の議会全体としての反省会を行いたいと思います。

先にちょっと資料の説明をさせていただきたいんですけれども、きょう、何点か資料があります。まず、11月に行われました議会報告会の資料、これにアンケートがついております。それと、先日おわけして家のほうで見ておいてもらいたいと言った、このつづりときょう新たに平成30年度第2回議会報告会の第2部「市民と議員による意見交換会」の取りまとめについてという頭の資料があります。

まず、この議会報告会で当日アンケートをとりました、このアンケートの③、④、これは議会で取り上げてほしいテーマと、議会に対するご意見がありましたかということで、市民の皆さんから意見をもらいましたけれども、この意見を先日おわけしたものに全て抜き出してあります。

それと、先日わけたものは、市民からの全ての意見と、各班で会議録をとっていただきました各会場ごとの会議録、また市民会議の意見を集約してあります。

それと、きょう新たに出された資料は、議会運営委員会の中で意見交換会の意見を取りまとめたものがございます。それが一番上の表紙になっておりますけれども、その次に、議会に対してのご意見ということと、次回以降、取り上げてほしいテーマということで、それぞれ星印でまとめてありますけれども、これが全ての出された意見をテーマごとに仕分けしてあります。そういったことで、きょうの反省会の資料としていただきたいと思います。

それでは最初に、総括的な報告ということで、議会運営委員会の委員長のほうからお願いしたいと思います。お願いします。

大石議員。

○14番（大石和央君）

それでは、総括的なことということで、少し説明をさせていただきます。ただいま議長のほう

から資料の説明がありました。まず最初におわけしたこの資料ですね。皆さん、もう既にあらかじめ目を通していただいていると思いますけれども、若干触れていきたいと思っておりますけれども、参加人数につきましては、ここに一番最初のページですけれども、あるとおりに、206名ということで、男性が191名、女性が7名、不明が8名ということです。

年代別に見ますと、136名、60代以上が圧倒的に多いということで、60代以上の方が8割を占めているような、そんな参加者の状況であったということでもあります。

そして、その次のページのところですが、各アンケート回収率とか報告内容について議会の報告会はどうでしたかというような中で、報告内容、意見交換の進め方、時間配分というようなことで、ほぼ、わかりやすい、普通というような方が6割、7割以上を占めているというような状況であります。

こうしたことで、参加者と、それから内容についてのアンケートの大ざっぱな報告はこれで終わりますけれども、次に、きょうおわけしました30年度の第2回市民と議員による意見交換会の取りまとめというような報告書でありますけれども、この中で、次の2枚目のところに、議会に対してのご意見ということで、全てのものをまとめたものでありますので、少し触れていきたいというふうに思いますので、資料をごらんください。

まず、議会に対してのご意見という中で、参加者についてでありますけれども、先ほど言いましたように、60代の方が最大の参加者であったということと、それから60代以上が8割を占めているという、そういうような状況であったということでもあります。

資料につきましては、やはり説明するにはペーパーが必要だねというようなご意見が多かったということでもあります。

そして、時間配分につきまして、報告会と意見交換は別々にしたほうがいいのではないかとというような、そのようなご意見でした。

次に、第1部についてということで、それぞれご意見をいただいたのですけれども、やはり時間が非常に短いということで、表面的な報告になってしまっているのではないかとというようなご意見でありました。

次のページになりますけれども、第2部についての意見交換ということについてでありますけれども、これは当初から議員の中でも意見がありましたとおりに、やはりテーマ設定が非常に大きかったということもありまして、やはり今後はテーマ設定を絞る必要があるというふうにご意見の中から考えられるものであります。

そして、全体についてということでもありますけれども、やはりご意見の中にあつたように、市民トークと議会報告会の違いがやはり明確に参加されている市民の方、わかりづらいというところがあつたのではないかとということで、市長トークについてはやはり、市制の説明ということが大半でありまして、そうした中で意見交換が行われているということでもありますけれども、片や議会報告会というのは、議会の活動報告と政策提言の形成に向けた、そうしたことを生かすために行っているということの理解が市民に伝わっていないということが、明らかになったのではな

いかというふうに思われます。

そして、議会に期待すること、その他ということでもありますけれども、これはそれぞれ参考にさせていただきたいというふうに思います。

次に、一番最初のところに戻りますけれども、取りまとめということでもあります。この意見交換会につきましては、先ほども言いましたように、非常にテーマが大きかったということもありまして、各班の取りまとめを含めまして、議運でそれらをさらに取りまとめたところでもあります。大体網羅されているのではないかとこのように思いますけれども、それについて、まとめについて報告をしておきたいというふうに思います。

繰り返しますけれども、テーマが非常に大きかったということもありまして、まとめるのが非常に難しかったことがありますけれども、やはり人口減少の中で、どのようなまちづくりをするのかという点に、やはり焦点が置かれて議論を進める必要があったのではないかとこのように思います。

そして、少子化対策については、ここに書かれてありますように、まず第1は移住・定住対策ということで、親子が遊べる公園の整備。あるいは若者が帰ってきたくするような施設の推進。余暇を楽しめるようなレジャースペースの必要性。住民の憩いの場となるような街並みの環境整備。親世代が牧之原市のよいところを伝えていく意識づけが必要だということなどあります。

2番目としまして、子育て支援・医療の充実ということで、図書館や最先端の教育環境の整備。差別化された魅力的な小中学校や一芸に特化した高校の必要性。子供の見守りや子育て支援、放課後支援の充実。小児科・産科の病院の充実。出産や育児に対して補助及び助成制度、こうしたものが必要ではないかというものでした。

三つ目に出会いの場の創出ということでもあります。若い女性の転出対策。あるいは外国人も含めた出会いの場をふやすというようなものでありました。

4点目に、働く場・雇用の確保ということで、企業の誘致ということで、若者や若い女性の雇用の場の確保ということで、一方若者の起業支援も必要ではないかということでもあります。女性に特化した就労支援ということも必要というようなものであります。

5点目にアンケート調査の実施ということで、若者を対象としたアンケートの実施をしたらどうかというような意見がありました。若い世代を対象に意見を聞くことが、これからの少子化対策に欠かせないのではないかとこのように思います。

次に、次ページの高齢化対策につきましてですけれども、1点目に、やはり一番多かったのが移動支援の確保ということでもあります。現在、デマンドタクシーをやっておりますけれども、そのほかコミュニティバスあるいは通院送迎バス、ウェブ配車サービスなど、公共交通の市内全域化、こうしたことを考える必要があるのではないかとこのように意見が多かったものであります。そして、ボランティア運行もどうかというようなことでもあります。

2点目に、医療・介護の充実ということで、老々介護対策、独居高齢者の見守り体制など、支

援方法の確立。認知症ケア等の支援。介護講習の開設というようなことであります。

3点目に、健康の維持ということで、健康寿命を延ばす取り組みの具体化。シニアクラブ、地域サロンへの支援。やりがい、生きがいを見つける。働く場所、活躍の場所を提供する。耕作放棄地がふえていますので、高齢者が農業をするという、市民農園も含めて耕作放棄地を活用したらどうかということでもあります。

4点目に、高齢者の居場所づくりということで、地域の子供と高齢者の交流の場をつくるということ。定年制の延長など、やりがいのある雇用の創出。そしてまた、空き家の活用を考えたらどうかということでもあります。

5点目に、考えやアイデアを提案する仕組みづくりということで、意見募集したらどうかということ。そして、災害時助け合いの具体化を考えたらどうかというようなことであります。

以上、この課題対応につきましては、既に市で取り組まれていることもあります。しかしながら議会においても、これからも調査研究すべき課題もあろうかと思えます。こうしたものを参考に、活動を進めたらどうかということでもあります。

簡単ですけど、以上報告といたします。

○議長（太田佳晴君）

ありがとうございました。

ただいま、議会運営委員会の委員長のほうから総括的に報告をしていただきました。これについては、今回は本当に大きなテーマだったものですから、結論的なものを導くことは当初から不可能だったんですけれども、その分いろんな細かい角度から、議会にとってみると大事な情報が得られたと思います。それを最終的には、この報告書の中にも書かれておりますけれども、今後のそれぞれの常任委員会の政策提言、また政策立案、条例制定などに結びつけていく参考になればいいかなと、そんなふうに考えております。

今の議会運営委員会の委員長の報告に対して、質問があればお願いします。

村田議員。

○10番（村田博英君）

3点ほど。各活動報告にいく前に、総括的ということで質問いたします。質問というか、私も非常に気になっていることなので申し上げますと、まず出席人数ですね。206名ということで、前年度が279名で、73名の減と。一番大きく減っているのが牧之原コミュニティ、あと史料館、それからあとは5名ずつマイナスになっている榛原文化センター、榛原公民館、細江コミュニティは3名ということで、ほぼ前年度かなと。

この減った原因は何だろうかというふうに。この前年度の前の年、その前の年ぐらいは300名ぐらいだったと思いますがね。ずっと減ってきているので、これはとても気になる場所ですね。この辺の分析をしたほうがいいのではないかなと。何かと重なったのか、そんなに大幅に人口減っていませんので。

それから、年代別で見ますと、60代が突出していますよね、136名、66%。それで50代、70代

とこうなっているわけですが、この昨今の新聞のアンケートで、政治の関心というところでアンケートをとった実績がありまして、それを見るとほぼ同じなんです。60代が一番政治への関心が高い。若い人は少ないということで、ほぼこれを反映しているかなというふうに思いますが。

参加人員だけがなぜどんどん減っているのかということですね、それをちょっと分析しないといけないのではないかと。それから、どういうふうにしなきゃいけないかということだと思います。

あと二つ目は、議事進行のやり方について、特に細江からクレームといいますか、区長から進行についてどうなっているのかということの、この質疑の内容前にあったんですね。これは、そういうことは載っていないんですが、細江区より問題点と質問を提出したのに、その回答がないと。また、それが無いのにまた再度質問を出せということはどういうことなんですかという質問があったんですね。

これは、各班、おのおの私も全部出ましたので見ていますと、議事進行は各班独自に任せたとするようなこともあったかと思います。そういうふうに指示があったので、それは果たしてよかったのかどうかということですね。

それから、事前に意見を出してもらったのに対して回答がないということは確かに、区長からどういうことだと、それはまた意見を出したのにどういうことだというようなことをありましたので、その辺の行き違いがあったのかどうかということですね。

あとは、これも特に細江のほうの話なんですけど、名前が出ていますから言いますが、谷の口の井口さんという方が、市役所は職員の勤務時間、8時15分じゃなくて、その前に行っていると、これは明確な法律違反だというようなことで、大分きつい口調でその質問があったんですね。最近また、実は私の家に来られて、あんなに質問したのに何も回答がないということで、これはちょっと時間がかかるんだと。これは行政の問題なのでということでもうちょっとお待ちくださいというふうに言っていますけど、大体この質問に対しての回答、きょう反省会をやって、恐らく1カ月以内ぐらいにやるのではないかなと思うんですけど、大体議会報告会やってから、どれくらいで回答するのかという、そういうのをあらかじめやっておいてもいいのかなというふうに反省点として思います。言ったほうはずっと気にして待っているようです。

以上、私が感じた3点を、私が思ったわけですが、来年のときに、こういうことが重なりますと非常に不信感を、言ってもしょうがないやみたいな話になりかねないので、その辺についてどういうふうにしていくか、お考えをお聞かせいただきたいと。

○議長（太田佳晴君）

最初に、きょうの流れを説明すればよかったんですけども、まず全体の総括報告ということで、議運の委員長からお願いして、その後各活動報告ということで、今回は決算の審査だったんですけども、決算の審査について、各常任委員会の活動報告について、議会改革の取り組みについて、それと今村田議員の質問になると思うんですけども、市民との意見交換について。それぞれで今言ったような意見を出していただいて、それをもって最終的に次回の議会報告会について、それをどのように反映していくかという流れでやりたいと思っていましたものですから、

できれば先ほどの、今言ってもらった3点については、後ほどもうちょっと詰めて、皆さんのご意見を聞きながら進めていきたいと思っておりますので、そのときにしていただけますかね、回答のほうは。

議運の委員長について、総括的なことで、この内容について質問があったらということなんですけれども、よろしいですかね、その点については。また後ほど、今村田議員の言われたことについては、皆さんがご意見を聞きながら、それをもって次回の議会報告会へ生かしていきたいと、そんなふうに思いますので、お願いします。

2 協議事項 (1) 議会報告会の反省について

イ 各活動報告

○議長（太田佳晴君）

それでは、各活動報告ごとの反省ということなんですけれども、今回は11月の開催ということで、決算の審査についての報告になったんですけど、例年だと6月ですので、予算審査についてという報告になっておりました。

今回のこの件についての反省ということで、ご意見を伺いたいと思います。よろしく申し上げます。

平口議員。

○5番（平口朋彦君）

ご来場いただいた方から受付でお話を聞いたのですが、決算の審査報告について、大きな数字的なものも、もちろんお聞きはしたいんですけど、それ以上にどういったことが要は議論されたか、審査されたかというところも聞いたかったというお声はいただきました。どういった、議会が質問をして、どういった答弁があったのかというのを聞いたかったなというふうにはおっしゃってました。

○議長（太田佳晴君）

ほかにどうでしょうか。また、今の意見についてでも結構ですけれども。

どうですか。

大井議員。

○7番（大井俊彦君）

予算決算の金額等については、市民トークで詳しく当局のほうから市民の皆さんに説明があるものですから、ここで概略的な予算決算の説明をしても、上辺だけになってしまうものですから、今言われたように、やっぱり議会としてどういう議論をして、当局からどういう答弁をいただいたかという、そのことのほうが市民の皆さんは興味があるところではないかというふうに思いますので、なるべく当局の市民トークのほうと予算決算についてかぶらないような形で、向こうのほう詳しく説明しますので、各事業ごとに。ですから、議会のほうは同じようなことをやると、どうしても議会のほうが薄くなりますので、その辺はそれなりに対応していかないと

思いますので、当局とのやりとりを中心に報告したほうが良いと思います。

○議長（太田佳晴君）

今、平口議員、また大井議員のほうから、当局とは差別化したやはり決算予算報告が良いということで、その審議の内容ですね、そういったご意見出ましたけれども、それについてまたほかのご意見どうでしょうか。

それでは、いいですかね。そのような形で皆さんどうですか、そんな方向で考えていますか。

それでは、決算予算審査についての報告、今後やるならばそれは内容としては市長の市民トークとは差別化した、議会としての報告になるような、どんな質疑をしたか、またそれに対してどんな答弁が返ってきたかという、そのような形でやっていったらいいかということによろしいですね。

それでは次の、各常任委員会の活動報告について、今回、総務、文教とも活動時間がまだその時点だと提言書も2年委員会の任期が終わるときにというようなことで、途中経過だったものから、なかなか思うような報告内容ができなかったとは思いますが、そんなことも踏まえてご意見、反省をお願いします。

反省とはいっても、議員間討議みたいな形になってもいいものですから、忌憚のないところでご意見出してもらって、なるべく次の議会報告会にいい形で臨んでいきたいと思しますので、よろしくをお願いします。

平口議員。

○5番（平口朋彦君）

市民皆さんの声からもあるように、時間が短かったとか、ちょっと辛らつなご意見としては幼稚だったとか、協議内容をもっと詳しく聞きたかったという声があります。それもさもありなんだなというふうに思いました。

今回、たまたま常任委員会の活動報告の資料というか、報告内容を作成するのを担当させてもらった者から言わせてもらおうと、1年に1回、今議会報告会やっています。それに対して、今回に限ってかもしれませんが、政策提言というものは、委員会の任期いっぱいに出していこうというふうに言っていました。

これはちょっと議会報告会全体のあり方にもかかわってくると思うのですが、そういった場合は、今回1部2部が散漫過ぎたとか、時間がかかり過ぎたとかというふうにご意見もいただきました。1年ごとの議会報告会という見方ももちろんありなんですけど、委員会として2年周期でやっているんだしたら、2年間で俯瞰を見て、例えば1年目は意見交換会を主にして、2年目は委員会の活動報告を主にするという形にすると、いただいたものに対してレスポンスというものができると思うんですね。意見をいただいて、それを委員会活動に反映しつつ、2年目は皆さんのご意見も加味しながら、こういった活動になりました、こういった形で政策提言になりましたというパッケージも、2年周期のパッケージもいいのかなのというのが、今回のこの市民皆さんのご意見から率直に思った感想です。

1年ごとという区切りでやると、どうしたって政策提言を出していなかったら、協議中の話かできないんですね。市民皆さんにすると、ちょっと重量感が足りないのかなと。協議しているのはわかったよというふうにとどまってしまうんだなというのは、すごく思いました。

あと、今回たまたまですが、視察報告、議員の委員会視察についてご質問いただきました。私がお答えさせていただいて、必要性を説きました。視察に行っていることは事実です。しかも、そう安くないお金を使って税金で行っています。その説明責任をきっちり果たせたのはよかったなと思います。

視察のことについて、オブラートに包むよりも、しっかりと視察の内容、問われればきっちり答えられるような形にして、ちゃんと皆さんの税金を有意義に使って、視察も有意義なものだったということを言えたのはよかったなと思います。

これからも、そういうふうな形で説明責任を果たしていきたいなと思いました。

○議長（太田佳晴君）

ありがとうございました。2年、2回の議会報告会を、関連性を持つということですよ。1年目は市民の皆さんの意見を聞く、また翌年はそれがどのように反映して、どのような委員会報告をしたかというようなことで市民にアピールをしていくというようなことだと思いますけれども、そういったことも、次の報告会へ生かしていければなと思います。

ほかにどうでしょうか。

○9番（植田博巳君）

私も、議会の委員会報告については、聞いている人は、ああそうですかと左から右へ流れているような状況かなと思います。それで、2部でやって大きな課題であり、もうちょっとターゲットを絞ってという意見もありました。今、政策提言に向けた調査研究しているのが、まさしくこの少子化と高齢化対策、中身を今やっているわけで、そういった、今現状で調査研究しているテーマを、2部のそういったテーマに置きかえて意見交換するほうがいいのか。だから委員会ごとというか、やり方はいろいろあるのしょうけれども、あくまでもテーマ設定は今やっている委員会の政策提言に向けた調査を一般的な市民会議というような位置づけの中でやれば、もうちょっと細かなというか、突っ込んだ話ができるのかなと。

だから、私が思うのは、1部、2部という分けでもいいのしょうけれども、テーマ設定をそういうような形にしたほうがいいと、そんな感じを受けました。

○議長（太田佳晴君）

ありがとうございました。今回、5分ぐらいでしたっけ、委員会の持ち時間が。いかんせん5分では恐らく、両委員会とも報告事項を、本当にただ表面的になったのは、これはしょうがないと思います。

そういう中で今、植田議員また平口議員のほうから、ある意味つながった同じような考え方だと思えますけれども、今の委員会の調査研究事項、それぞれの、それを市民との意見交換の中で、より多くの意見をいただいて政策提言に結びつけていくというような考え方ですよ。それ

をまた、次回の報告会に生かしていければなと思いますので、ありがとうございました。

ほかにご意見は。

吉田議員。

○4番（吉田富士雄君）

先ほど平口議員からもありましたように、私もこの提言に向けての活動はというところで、下田市、熱海市、伊豆市への視察研修について、自分も議員じゃないときは、議員さんたちはそういうところへ旅行がてら研修というような一つの手段であって、行っているのではないかといって、議員になってみて思ったんですが、やはりああいうところへ行くと、意見も聞けるし、よその地域のこともある程度理解できたということで、本当に議員になったときと、その前の市民でいたときの差というのが、ある程度理解できたというのが、本当にわかったような気がいたしました。そういうことで、視察は必要だと思っています。

以上です。

○議長（太田佳晴君）

ありがとうございました。視察報告についても、しっかりやっぱり市民の皆さんに報告をして、それでそのことの意義をわかっていただくということが大事だということですよ。次回もまた、そういった視察報告はしっかり報告して理解してもらえるような、要はそういう内容の視察を行わにゃいかんということが前提だと思いますけれども、よろしくお願いします。

ほかにご意見どうでしょうか。

よろしいですか。

それでは次に、今回議会改革の取り組みということで報告したんですけれども、これについてはどうでしょうか。

どうですか、議会改革の取り組みについては。

平口議員。

○5番（平口朋彦君）

議会改革という言葉だけをとると、議会議員にとっては非常に必要で優先度の高い、プライオリティの高いものなんですけど、実を言うと市民にとっては余り関心がないというか、やるんだしたらどんどん進めてというぐらいなニュアンスなんだなというのを、ひしひしと感じました。

ただ、関心があるないは別として、議会の質が上がる、向上する、改革することによって、議会の質の向上につながるということは、ひいては住民福祉につながるということなので、こういうことを進めているということに関心がなくても報告はし続けたいいけないですし、逆に言うと関心を持ってもらうような報告というものも、これからもさらに工夫をしていかないといけないかなと思います。

幸いにして、議会改革特別委員会というものが、今どんどん、どんどん煮詰まっています。次回は、今の取り組みだけではなくて、形になったものを提示できると思うので、そこでようやく関心を持って、今度はそれに対してのご意見も聞けてくるようになるのかなというふうに思いま

した。

○議長（太田佳晴君）

ありがとうございました。議会改革の取り組みについては、我々議会は全ては議会基本条例に基づいて活動しているということで、それを基本とした議会改革を進めている。また、その結果をしっかりと出して、その結果を報告するという事は大事だと思いますので、成果をとにかく出すということが大前提になりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

ほかはいいですか。

濱崎議員。

○2番（濱崎一輝君）

議会改革ということだけではないんですけども、このアンケートの中にも入っていますけれども、やっぱり発表の仕方だとか、議員がパワーポイントをしっかりと使える。じゃないと、結局聞いている人たちは民間で働いている人たちが結構多いんですけども、民間では当たり前のように使えてきているものなので、内容が幼稚だとか載っていましたがけれども、その辺に関してもパワーポイントの使い方だとか、あとプレゼンの練習だとかというのもしっかりとやった上でいかないと、余計にストレスになってしまうし、余計なところで突っ込まれるというところがあるものですから、これはしっかりとやっていく必要があるのかなというふうに思ひました。

○議長（太田佳晴君）

事前にパワーポイントまた、プレゼンの仕方を勉強するという事ですよ。

ほかはどうでしょうか。

平口議員。

○5番（平口朋彦君）

今、濱崎議員からのご意見で、私もはたと思ひ出したんですが、以前にもちらっとちょっと、こういう場ではないんですけど、内々で話をしたんですが、今回決算、各常任委員会の報告、あと議会改革について、四つの報告案件があったんですが、皆さんばらばらなんですよ。見た目が。そういう見た目をそろえるというのも、報告を聞く側にとっては親切なのかな。例えば、フォントの大きさもある程度そろえるとか、もっと言うとテンプレですよ。こういった形の、今4分の3、今回は皆さん16分の9の横長の画面でやったのですが、前は4分の3のグループもあれば、16分の9のグループもあって、画面のサイズも違うし使っているフォントも違う、色合いも全く違うという、どうしても散漫な感じもしますし、それが腕の見せ所になればいいんですが、ごちゃごちゃして、結局市民皆さんが余り積極的に見ようというふうに思わないぐらいであれば、ある程度テンプレを決めて、その中に内容を盛り込んでいくという形がいいのかなというふうには思ひました。フォントの大きさはこれ以上絶対小さくしないと、余り字ばかりのページをつくらないと、そういうふうな決め事をつくっていくというのも大事だと思ひました。

○議長（太田佳晴君）

ありがとうございました。体裁を整えるということですね、全体の。

ほかにご意見どうでしょうか。

それでは、この件はよろしいですかね。

それでは次に、市民との意見交換について、先ほど村田議員のほうから初めに出されましたけれども、そのことも含めてご意見をお願いします。

植田議員。

○9番（植田博巳君）

テーマ、班ごとの進行、ワークショップ形式等と書いてありますので、まずテーマから。テーマは先ほど言った、今調査研究しているもののほかに、地域ごとの課題って、やっぱり意見の中で出ていましたので、その地域にあった課題に対して市議会の考え方とか、そういうものを報告する必要があるのかなと思いました。

それから、今回の意見交換は、市民に対する議会報告の公平性が保たれていないというふうに私は思いました。それはなぜかといいますと、ワークショップ形式でやっているところもあり、以前のポストイット方式でやっているところもあり、ばらばらである。これというのは、牧之原市民に対して一定の公平性が確保されていないと思います。

それで、なおかつファシリテーターが入っているところと入っていないところと、ばらばらなんです。ファシリテーターを議会で要請したのかなと思ったんですけども、そうなのか、それから個人で要請したのか。個人で要請したとなれば、交通事故とか起こしたときにどのような対応をするのかなと。そういうような課題があるのではないかなと思います。

ですから、あとはワークショップ形式だと時間が短いということで、完結していないという意見もありましたので、答えがわからなかったというような意見もあります。

だから、このやり方は牧之原市議会として班ごと全て統一すべきと私は思います。

ワークショップ形式でやるのであるならば、ちゃんとした、議会からファシリを要請するんだったら要請する、要請しないんだったら要請しないと、はっきりしないと本当にあと、事故でも起きるとえらい問題になるのかなというふうに考えました。

以上です。

○議長（太田佳晴君）

今回、それぞれ今、植田議員のほうから話ありましたけども、各班でファシリテーターをお願いしたところ、しなかったところ、そのやり方もさまざまでした。これについては、今回については班ごと班長の判断のもとにやっていくということで方向性が出ていたものですから、私もその自主性というか、それを尊重して、そういったことでやってみました。

それは、今回のやったことで、今出されたように反省に基づいてまた、次回改善すればいいと思ったものですから、そういったことで今回は対応させていただきました。

そういったような、忌憚のないところを出してください。

○ 9 番（植田博巳君）

今の関係でちょっともう1回。今回は、本当たまたま事故もなくいったのでいいんですけども、これが本当に交通事故でもあったり、ここへ来る間に、自主的に来ているんだったら別だけど、そうじゃないときはどういう対応をするつもりだったのかなど。そこら辺は考えていたのでしょうか。

○ 議長（太田佳晴君）

事故については、基本的には我々議員もそうなんですけれども、議会報告会は議員の自主的な活動の中で行っているものですから、基本的には事故は自己責任ということなんですけれども、そうはいつでも議会のほうで依頼して、もしものことがあれば、それはそれとしてやはり議会としての判断の責任というのは、知らないよということはいかない部分はあるかと思しますので、それは今出されたような意見をもとに、また次回はしっかり判断する必要はあるかなど、そんなふうにあります。

○ 9 番（植田博巳君）

報酬はどうしたんですか。もし依頼してあるならば、報酬を払うのではないですか。無料報酬ということじゃないですか。

○ 議長（太田佳晴君）

大井議員。

○ 7 番（大井俊彦君）

1班が、今、植田議員から言われたようにファシリテーターに参加してもらったんですけども、あくまでも市民として市民の立場として参加していただきましたので、報酬とか、そうした災害交通事故等々については個人責任だということをお願いしました。

ですから、正式にファシリテーターをお願いしますということでなくて、ぜひ市民の一人として参加していただきたいと。ついては、リーダーシップをとっていただいてお願いしたいという形をとったものですから、そういう意味ではそういう形になりました。

それと、私も1班としての総括をしたんですけども、1班はワークショップ形式でやったんですけども、市民と議員が同じ目線でテーマに対して意見交換ができたということ、それから今まではどちらかという、一部の方だけが偏った発言になりがちだったのが、全員参加型の報告会となったことはある程度評価できたというふうに思います。

ただ、意見交換するテーマについては、さっき植田議員からもあったように、もう少し各地域にかかわりのあるものに設定するなど検討する余地があるのかなというふうに思いましたので、その辺をぜひ次回に反映していただきたいということと、もう一つはこれも植田議員から話があったように、今回は班ごとに報告会の運営方法が異なった形でありましたけれども、次回はある程度統一したものにして、各班が相互に連携して協力対応できるような形の報告会にしていただきたいというふうな形で、私も1班としての総括で書いておきました。

以上です。

○議長（太田佳晴君）

ワークショップについてはいいですね。そのような形で今回、各班の班長の判断。それは次回に反省は生かせばいいと思いますので、お願いします。

濱崎議員。

○2番（濱崎一輝君）

今、植田議員とか大井議員の話がありましたけれども、今回の実際に依頼するに当たって、ファシリテーター、これは私が自分自身が市民ファシリテーターとして活動していたときの仲間に、大井議員がおっしゃられたように市民として参加していただいて、協力していただければということで依頼しました。

ただ、交通事故云々という問題になったときのことは、確かにそのとおりでなということもあるものですから、あと各班によってやり方が違うというのはやっぱり問題があると思うので、次回以降、やっぱりやるんだったら統一してやっていただきたいということと、あと、今回ボランティアということになりますけれども、実際にこれからワークショップ形式でもしやるということであれば、ファシリテーターに報酬をとということはお願いしたいなということで、それは個別に大井議員とも話をして、もしやるんだったらということも、報酬の話もしていたものですから、その辺のところは今後の検討ということで、まず最初の一步を踏み出したというところで、これで検討していただければと思います。

あと、3班のほうも若干やり方が違ってはいますが、グループワークで分かれてやるということで行くと、対話のワークショップということとはかわりませんので、そうするとアンケート結果を見ていくと、1班、3班のところを見ていくと普通もしくはよいというところの結果のほうは結構数値的には多いのかなというのも感じるものですから、ぜひこれ前向きに検討していただきたいなというふうに思います。

○議長（太田佳晴君）

ありがとうございました。先ほど来、少し出てはいますが、今回は3班それぞれの形の中でバラエティにやっていただきました。やはりこれは統一したほうがいいよという意見が出ておりますので、今回はある意味逆に考えると、三つのことを一度にやったということで、次に生かせる材料が多く出たのではないかなというふうに考えて、次に結びつけていただきたいと思います。

ほかはどうでしょうか。

吉田議員。

○4番（吉田富士雄君）

全体についてというところにあるんですが、細江から出ている意見ですが、自分もちょっとそう思ったんですが、我々議員には執行権がないということは聞いていますし、ここのところで議会報告会は必要なの、市民からの声を聞く設定でということで、この議会報告会というのは聞くところによると御前崎のほうはやっていないようで、どこの市でもやっていることじゃないかもしれないし、違ったやり方、報告をするというんじゃないかと、市民からの生の声をという形にと

いう、これを今読んでみて、そうかなと今思ったんですが、そこら辺、皆どうでしょうか。

○議長（太田佳晴君）

議会報告会については、議会基本条例の中で定められておりますので、これは我々やらなければならないという義務があります。たしか、御前崎議会の場合は議会基本条例の中に、それを位置づけていないと思います。議会報告会をやるということを。我々はやらなければならないという中でやっておりますので、そういったことで市民の皆さんには説明をぜひお願いしたいなと思います。

吉田議員。

○4番（吉田富士雄君）

わかりました。そういうことで議会報告をするとしても、やっぱり市長おでかけトークみたいな感じになってしまって、それに市民の声を我々どうでしょうかと聞かれても返答できないというか、決定権がないものだから言えないというところにちょっと疑問があるものだから、また違ったやり方も、これをやることについてはやらなきゃならないもので条例で定められているし、また違った方法はないかなとちょっと思ったものだから、そう今質問しました。

○議長（太田佳晴君）

今、吉田議員のほうからご意見いただきましたけれども、それについてはこの後のウの中で、次回の議会報告会についてということで、やはり市長の市民トークとの差別化、議会でなければできない議会報告会の形をとれば、そういった市民の意見に対してもしっかりと説明できるかと思っておりますので、またアイデアを次のウのところで出していただければと思います。お願いします。

ほかはどうでしょうか。

平口議員。

○5番（平口朋彦君）

これは意見というわけではなくて、課題提起になってしまうんですけれども、以前大井議員もおっしゃっていたんですが、議会報告会のこの第2部の意見交換会が、市民と議会との対立構造になってはだめだよ、それは避けたいよねということをおっしゃっていて、まさにこの意見交換会で我々議会がいろいろ模索しているというのは、あくまでも対立ではなくて対話もしくは協調、市民参加というものを目的にしています。そういった意味で、今回試験的にワークショップ形式を取り入れたりと、ブレスト形式を取り入れたりと、ポストイット方式と、班ごとにさまざまやったんですが、その中でやはり物理的に会場の広さという、物理的な部分で断念をした会場もあったかと思っております。やりたいことをやれなかった会場もあると思っております。そういった意味では、先ほど植田議員がおっしゃったように、市民にとっての議会への参加方法がまちまちになって、公平性が保たれていないよねというのは、まさしくそのとおりなので、やはり会場に左右されないやり方というものを、これからちょっと研究していく必要があるのかなというのは非常に思いました。

例に挙げてしまうのは申しわけないんですが、細江でちょっと、細江コミュセンではちょっと

紛糾した部分がありました。あれというのは、もっと広々としたと言ったらおかしいですけども、やり方というものも、違ったやり方ですればああいうふうにはならなかったのかなというふうにもちょっと、傍聴というか見学していて思ったので、今後会場の広さも含めて、方法も含めてちょっと検討していく必要のある宿題をいただいたなというのが率直な意見です。

○議長（太田佳晴君）

会場の設定についてということですね。

村田議員。

○10番（村田博英君）

ちょっといろいろありますけど、会場の広さでというよりも、会場はあそこ体育館がありますので、要望すればできるんですよ。そういうことをしたかどうかということなんですね。

私は、皆さんのいろんな意見を聞いて、意見交換会をなぜやったかというのは、これももう3回目なんですよ。ただの意見、こっちが議会報告するだけじゃストレスがたまって面白くも何もないというので、じゃあ対話型にしましょうということで始めたんですね。いろいろ模索しているところだとは思うんですね。その中で出た反省点が、数々出ているんですよ。パソコンの使い方とか、印刷が見にくいとか。それから、予算では細かいことを言ってもしょうがないじゃないかというような意見も出て改善をしてくれているんですけどね。

だから、一部の意見なのか全体の意見なのか、その辺もよく考えてやらなきゃいけないんですけど、これはいずれにしてもリハーサルをやっているんですよ。今回は、5月にやって、しかも11月にまたやったわけですね。時間がないというのが理由の一つなんだけど、このリハーサルを何のためにやるのか。今、終わってからの意見とかいろいろ出ていきますけど、リハーサルをやって、それから結果が出て、反省点も出ています。それをなぜやらないのかという、なぜできなかったのかな。

これ、ここで言って、また次回やらなきゃ何でもないただの評論家みたいな話になっちゃって終わりですから、ここのところをぜひ、せっかくの時間をとってやるわけですから、ぜひ反省点は反省点で挙げて、それを次回に生かしてもらおう。これはぜひ、議運の委員長にお願いしたいと思うんです。

さっきからずっと出ていきますけど、3班とも統一しないとだめなんです。これをぜひお願いしたいなと思います。

先ほど言った、私の3点は、別にまた殊更言わなくても結構なんですけど、残してもらって、なぜ人数が減っているのか、それから進行の仕方、それからもう1個あったけど、その3点についてはまた報告していただければ結構です。

以上です。

○議長（太田佳晴君）

今まさに村田議員お話のように、なぜ今回こういう形の反省会にしたかと言いますと、それぞれの部門別の今やってもらっていますが、それを次のウの中で、次回の議会報告会についてと

ということで、どんな形がいいのかなということを皆さんからご意見いただきたいと思います。

それを議運のほうへしっかり上げて、議運のほうで次回の報告会の素案をつくと。それをまた皆さんに諮って最終的な形を決めるということだものですから、まさにそういう方向で皆さんにお願いしているものですから、この場では忌憚のない意見を出してもらって、それをどのように反映していくかということで、考えていただきたいと思います。

中野議員。

○13番（中野康子君）

私たちの班は、地頭方でありましたけれども、津波対策ということで防潮堤のことでいろいろ意見が出ました。そういった中で、投げかけられたことは、なぜ危ない、この小学校が近いところなのに津波対策が進められないで新庄のほうから進めたのかというような意見でしたけれども、これはあくまでもその地区が新庄地区の方、それから地頭方の地区の方が両方の区がちゃんと相談した中で、了解を得た中で新庄地区から始めるという、そういった結果になったということをして区の区長さんのほうが、新しくなった役員さんのほうにお知らせしていなかったというようなことで、そういった誤解が生まれている部分がたくさんございました。そういった中で、防潮堤について1メートルで幾らぐらいかというのを絶対に教えてほしいと言われたんです。その後、私、建設課のほうへ行って、もし説明ができるならちゃんとした説明をその方にしてくださいというふうにお願いをしましたけれども、これはあくまでも議会報告会の中でのお話なものですから、反省会できちんとした意見が出てからお知らせするというのをいただきましたので、ぜひきょうのこの反省会の中で、地区でどうしても聞きたいと言われたことに対しては、そういった対応をぜひしていただきたいなというふうに思います。

○議長（太田佳晴君）

議運の委員長のほうと、きょうのこの反省会が終わったところで地区のほうにどのような形でご返事をするかということで対応したいということで話しておりますので、先ほど村田議員のほうからも、細江のときに出た、そういったものにもどういう形でご回答するかというのは検討させていただきます。

植田議員。

○9番（植田博巳君）

今、地区での報告なんですけれども、私のほうにもいろいろ報告会の結果とか、対応、地区からも私のほうにも来ています。やはり報告会やったんですけども、意見を出したんですけども、その議会としての対応、方針、今議運の委員長から言ったように、やっている施策もありますので、実施済でこういう施策やっています、対応はこうしますとか、これからこういう方針でやっていますと、そういった報告をやはりぜひ出していただきたいというふうに思います。

それからもう1点。大井議員が口頭で説明した、地区からの意見に対して口頭で説明していましたよね。その大井さんの説明を文書でほしいという答えが結構あるんですけれども、それもやはり言うておりました。最初に意見というか、こういうことと言ったのに対して口頭で報告があ

ったんだけど、実際書いたものでほしいよというような意見もありましたので、お伝えします。

○議長（太田佳晴君）

では、それも含めて議運の委員長と話をして対応を考えますので。

ほかはどうでしょうか。

濱崎議員。

○2番（濱崎一輝君）

今のご意見に関連するんですけれども、各地区やっぱり質問とか投げかけているので、回答を文書で出してあげたほうがいいと思うものですから、全部細かくというのは難しいと思いますけど、その中からできるものとか、できていないものとか、こういう状況になっていますよということは、それはペーパーで出していただくとうれしいなと思います。

それからあと、ワークショップの関係で補足させていただきますと、もしこれをやるのであれば、議員全体で研修会をやっていかないと、片手間でやるとできないものですから、あと実際に、牧之原市で言うと、協働のまちづくりということで、各市町からいろんな行政だとか議会が視察に来ているんですけれども、その中で去年行った北上市ですね、あそこに関しても市のほうに視察に来ているんですね。そういったところで、逆に北上市のほうはそれも議会を取り入れてやっているということで、そこに関連している先生なんかでいうと、中央学院大学の佐藤先生なんかというのはずっとかかわっているんですけれども、牧之原市にもよく来ているんですね。必要であれば、そういった先生も呼んで研修会などやっていただいて、必要であれば私のほうも研修とかも協力しますので、ぜひやっていただければと思います。

○議長（太田佳晴君）

わかりました。当然文書のほうで出すようになるかと思いますが、もう少しお待ちください。

ほかはどうでしょうか。

澤田議員。

○12番（澤田隆弘君）

今回第2部の少子化対策、高齢化対策ということでワークショップをやったわけですが、地区によってはその地区の問題があるんじゃないかと。地区の問題を取り上げてくれたらどうかという意見もありましたので、その辺はどうですか。

○議長（太田佳晴君）

そういったことで地区からの区長さんをお願いして意見を出していただきました。それをもとに今回の議会報告会は、基本的にはそういった構成にはなっていたわけなんです。ただ、それがなかなか伝わっていない部分はありましたけれども、それを先ほど大井議員の班長の説明というのは、その質問に対しての回答をしっかりしていただいたという、そういうことですので、それを統一感をもってやっていなかったということで、先ほど来、意見が出ているんじゃないかなと、そんなふうに理解しています。

いいですか。

澤田議員。

○12番（澤田隆弘君）

でも今回は、少子化対策と高齢化対策について全体でやったわけじゃんね。だけど今、地区によってはそれではなくて、地区の問題だけでワークショップをやりたいという人もいたわけですよ。

○議長（太田佳晴君）

それはまたちょっと違う問題で、今回は少子高齢化についてという、そのことの地区の問題を出していただいたものですから、それとはまた別個の問題を次のテーマということで、やっていく必要はあるかと思います。

いいですか。その辺で。

原口議員。

○3番（原口康之君）

このテーマに沿ったという意味でいうと、少子高齢化、少子ということを考えるとやっぱり、男女の比率みたいなものも非常に大事になってくるのではないかなと考えますけど、この参加者の比率を見ると、もう90%以上が男性で女性は3%。いろんな男女参画とかいうところの部分を見ると、ちょっと少な過ぎるというか、この辺もちょっと考えていかなきゃいけないことかなと思います。

○議長（太田佳晴君）

参加者についても、今の参加者のお願いの仕方は行政連絡会で区長さんたちをお願いして地区の基本的には参加を呼びかけているものですから、その中で女性が非常に少ない、それは事実です。またその辺どういう形で参加者を呼びかけるかという方法については、またご意見をいただいて次回の報告会の中では参加者についてはこのように呼びかけたらどうだという、またご意見をお願いしたいなど、そんなふうに思います。

よろしいですか。

2 協議事項 （1） 議会報告会の反省について

ウ 次回の議会報告会について

○議長（太田佳晴君）

それでは次のウの、次回の報告会についてということで、今、それぞれの反省の中である程度次の議会報告会のどうしたらいいかという形が皆さん、それなりにぼんやりとできているじゃないかと思います。そういったことで、議運の皆さんも当然そのことは頭の中に今イメージとそれは入ったかと思いますが、重複しても結構ですので、次回の議会報告会については、このような形でやったらいいじゃないかということ、例として全体の構成、開催時期、回数、市民との意見交換のやり方、この辺も含めていろんなご意見をいただきたいと思います。それを議運

のほうで、またしっかり検討材料にさせていただきますので、よろしくお願いします。

濱崎議員。

○2番（濱崎一輝君）

先ほど、平口議員のほうからも出ましたけれども、2年スパンでやっていくというのがいいかなというのを思うんですね。全部詰め込んでやると、確かに時間が長いとか短いとかとを感じる、それぞれあるんですけれども、ストレスになってくるので、1年目に関しては意見交換会ですね、ワークショップ形式でやって、例えば2年目に関しては委員会の報告をメインにしてやっていくとかという形でやっていくほうが、議員にとっても市民にとってもわかりやすい。最初はなれるまで何だという部分があると思いますけれども、これはアンケートの中にあっただけなんですけれども、やり方にしても周知していくという形で、議会だよりなんかにも載せていく、事前にこういう形でやっていきますよと出していけば、急にやるとなるとやっぱりいろんな意見が出てくると思うから、事前にそういう告知をしながらやっていくということ。

それからあと、原口議員のほうからも先ほど出てもので言うと、今、太田議長もおっしゃられましたけれども、各区に依頼しているという状況だと、どうしても年齢層が高くなってくる。若い人たちからいろいろ聞くと、いろんな団体があるので、そういうところに声かけしていったほうがいいよということをおっしゃっているわけですよね。特に女性の団体だとか若い団体があるので、そういうところに声をかけることによって、曜日だとか会場だとかというのはまちまちになるかもしれませんが、そういった形で新たな人を呼び込めるような形にしていかないと、今の方法でやっていくと結局年配者の方になってしまうので、それはちょっと考えていただけたらというところがあります。

以上です。

○議長（太田佳晴君）

ありがとうございます。今、呼びかけについて、なるべく広い範囲でいろんな団体に呼びかけることによって、女性の参加も促すということと、開催の考え方ですけれども、1年単位の議会報告会でなくて、2年というスパンの中で考えて組み立てをしていくという、そんな今ご意見が出ました。

いろんなご意見をお願いしたいと思います。

どうでしょうか。

藤野議員。

○6番（藤野 守君）

以前、昨年までか少し記憶がないんですけれども、議会報告会の冒頭というか、最初に二元代表制であるとか、議会と行政の関係であるとか、そういった説明をしたんですよね。市民にとって、議会も行政も市の当局だという考え方があって、さまざまな意見が出るのですけれども、やはり私たちの議会ということも、再三再四になるかもしれないんですけれども、説明して、今言った二元代表制の説明であるとか議会はこういうものだとか、行政とはこういう関係にあるんだ

とか、そういったことがやはり毎回のように説明して理解した上で、私たちの常任委員会の活動報告なり、意見交換なりに入っていくと。私はそういうふうに思うんですけれども、それだけ申し上げます。

○議長（太田佳晴君）

ありがとうございました。なるべく、議会とはこういうものだということを市民にしっかり周知をまずはすると。それを、何回も何回も同じことでも続けていくということですね。ありがとうございました。

村田議員。

○10番（村田博英君）

さっき参加人数のことを、ちょっと減少傾向なのでということで調べる必要があるということをおっしゃいましたが、実は牧之原市は議会報告会への参加人数が国内でも多いんですね。上位です。なぜ多いのかというのを参考に他市町が視察に来るぐらいです。私説明したことありますけどね。

ただ、何で300人とかいるんですかということに対して、町内会長とか役員の皆さん集めているんですよと正直に言うと、ああそうかと、そういう手もあるかというような感じ方があるんです。何で町内会長かなと思ったんですけど、ただ、町内会長さんが理解してくれていないと、市のいろんなことを、いかんだろうなということではないかなと思うんですね。そして区長さんも一緒に、議会はこういうことをやってくれているんだとかいう、こういう活動をしているんだということだと思えます。私が勝手に思っているのはね。だから、町内会長さんやめちゃうとか、あれしますと、また次の問題が出てくるのかなとか、いろんな団体もちろんやっているといるのですが、団体、市民会議ってありますよね。委員会の会議がありますよね、市民と一緒にやる。農協の団体とか、商工会とか観光協会とかのいろんな。それをもっと頻繁にやったらどうかと思うんです。ちゃんと理由もなくやれるわけがないですから、こういうことで委員会として非常に関心が高いということにおいて、市民団体とやるということの区分けをある程度しなきゃいけないのかなと私は思っていますけど。

以上です。

○議長（太田佳晴君）

先ほど来、出ています参加人数ですけれども、去年よりもことし確かに人数低いです。ただ、今までのやり方だとこのくらいのところで上下するかなという、それは思います。それはやはり、行政連絡会呼びかけて各地区の役員の皆さんを中心にとということだものですからこんな感じだと思えますけど、先ほど原口議員からも、濱崎議員から出ましたように、いろんなやはりポイントを絞った団体に呼びかけることによって、もっともっと女性も参加してもらえ、それは可能性は十分あると思います。そのときにやっぱり大事なのは、報告会の内容もそれに合わせた形をとっていかないといけないものですから、それとやはりリンクさせて議会報告会というのを組み立てをする必要があるかなと、そんなふうに思いますので。

植田議員。

○9番（植田博巳君）

今の参加人数の中で、この資料を見ますと、ゼロ人とか一人の区が11区あるんですね。そういうことと、出てきていただいている方も区の役員ということで、出されてきたというか、自分で意志を持って来ているという人は少ないのかなと思いますので、やはりこれは地域ごとの課題というものをテーマにすることによって、この方々、ゼロ人区とか一人しか来ていない区の方も参加してくれるのかなと。だから、やっぱりテーマをちゃんとした形で持っていくことが参加人員を広げる要素なのかなというふうに思いました。

○議長（太田佳晴君）

大事なことだと思います。そういったことで、どういう人を集めるか。それにはどういう議会報告会を設定するかという、それをしっかり関連性を見きわめながらやっていくという必要がありますので、また議運のほうでその辺も含めて検討していただきます。

平口議員。

○5番（平口朋彦君）

先ほどのお話しさせてもらったのと重複するのですが、皆さんからのご意見も拝見すると、やはり時間が長くなってしまふのはむしろ冗長過ぎるのかなと思います。次回、これは一つのアイデアですが、やはり1部と2部と同じ日にやるのはやり切れないんじゃないかな。一つのアイデアとして、一部、活動報告と意見交換というものは切り離して別にやるのも一考の余地があるのかなと思うのがまず一つ。それを先ほど私は2年スパンでというふうに言いましたが、これを1年の間でやるのも一つ、そのアイデアを排除することでもないですし、言いたいことは1部と2部は分離させるべきなのかなというのが皆さんのご意見からも読み解けます。

あともう一つ、先ほど来、出ています参加者についてなんですけど、今回議運のほうでたしか、各小中学校のPTAの役員会さんのほうにも通知をして、できればお越しく下さいということをやっていたと思います。その割には来なかった。PTA役員さんと思われる方が、思しき方がいらっしゃらなかったということは一つ重く考えないといけないかなと思います。

これはちょっと蛇足になってしまうかもしれませんが、若者が何で参加しないか、私なりにちょっといろいろ周りに聞いて話も聞いて考えたんですが、一つはこの地域ってすごく保守的で、もっと言うと封建的な考え方がいまだ残っている地域なんですね。重用の重を重んずるといふか、年長者に対してはやはりある程度尊重しているという地域でもあると思うんですね。そういった意味では、この萩間地区からのご意見にもありましたが、議会報告会は役員の研修の場と考えているというご意見もありました。地区の町内会長とか、組長さんとか区長さんとか、そういう役員の方々がそろっている場に若い人間はなかなか足を運びにくい。もっと言うと、そういう場で、私みたいに生意気な若者もいるのですが、普通一般の方は自分たちの大先輩がそこで代表として行って物申してくれるから若い人間は出しゃばるべきではないという考え方も一つはあるんですね。

この地区、すごい祭りが盛んです。祭りというのはちゃんと年長者から年若の人間まで統制がとれていて、それというのが悪い意味でこういう議会報告会の参加者に反映されちゃっているのかなと思います。

これは一つのアイデアなんですけど、役員さんが半ば強制的に出てきてくださっている部分があるのだとすれば、その役員さんに、今度は役員さん抜きで若者を強制的にという言葉は使いにくいんですが、若者に参加してもらえるような議会報告会というものを設けますので、むしろ若者世代、今回は若者世代を出してくださいよというような頼み方をすれば、PTA役員に投げて反応が薄かったんで、今度は別に切り口を変えて自治会の役員さんに若者を半ば強制的に出してもらえませんかというやり方も一つありかなと思います。

○議長（太田佳晴君）

ありがとうございます。どういった層を集めるかということですよ。そこをターゲットをどのように絞る。それで、内容もどのような内容を設定するかということも関連すると思いますので、また議運のほうでお願いします。

ほかにどうでしょうか。

名波議員。

○8番（名波喜久君）

人数の関係だけでも、一つ初めに言うのは、各区会へお願いしてやっているけれども、その区会が2年交代3年交代の区会もあるわけだね。だから、その交代した後に報告会があると、前回の報告については聞いていないということで、そのちぐはぐも出てくるし、そのときの課題についても途切れてしまうということもあるものだから、とにかく基本は区会が入っているということであるというならば、この地区は交代があったとか、いつ交代するのか、その辺の把握もしておいたほうが、後で報告する中においてやりやすい面も、その地区の問題を出すについてもやり安いじゃないかなと、そういう気もします。

それともう一つは、各種団体、いろんな若年層からいろんな年代を出していきたいという話もあるけれども、実際のこと、本当に自分が綺麗事で言っていれば、確かに団体があって出るというのは当たり前かもしれない。けれども、その団体の役員になる人、皆本当実は嫌々でやっている人ばかりだと思うんですよ。本当の話。どの団体も全てそうだと思う。その人たちに何かの会合をやるといった場合に、そういう役員になっているからしょうがない、行くだよと。そういうのが本音じゃないかなと思うのね。だからその辺の本音のことも考えていかないと、ただこういう団体があるからきれいにできるわという話では、そういう問題じゃないものだから、その辺もちょっと検討していかないといけないし、本来の誰も役員やりたかないという、そういう人間がいっぱいいる中で、その中でやることについては非常に難しい問題もあるし、いいアイデアがほしいなと、そういう気もします。

○議長（太田佳晴君）

今、名波議員から言われたようなこともまた分析しながら設定をしてもらいたいと思います。

中野議員。

○13番（中野康子君）

きょうのこの集計を見て、ちょっと集計の数が本当にこれ正確かなと思ったのは、榛原文化センターで川崎地区の方がゼロですけれども、川崎の区長さんがたしか意見を言いました。なので、この不明の中に入っているにしても、川崎のところがゼロというのはちょっと考えられないなと思いました。

それと、牧之原コミュニティは、白井というのは、大久保のことをいうものですから、相良組はほとんど萩間公民館へ行くので、その辺がちょっとわかりにくいかなとちょっと思いましたので、一応お話しさせていただきました。

勝間田も落ちていると思います。不明のほうに入っているのかわかりませんが。

以上です。

○議長（太田佳晴君）

すみません。なかなか100%のものは出ないもので、多少違うところがあるかもしれません。

ほかに。

吉田議員。

○4番（吉田富士雄君）

この報告会の資料を見て、大体読み返したのですが、一つには牧之原の区長さんからなんですが、榛原と相良とのあり方の違いということが、一つは二重行政、今後のテーマとして自分もこういうことをテーマにして考えてもらったほうがいいじゃないかということなんですが、榛原と相良という、牧之原市になったのに、ずっと十数年たっているのにまだそういう流れ、公民館とかという、そういう問題もあるし、そういうことを今後テーマにして議会の中で市民ともそういうことを区長が言うように、心配している方は各地区でいるように思いました。

そういうことで、やはり牧之原市が一つになるためには、そこを何とかしていかないと牧之原市じゃないかなというように思いますので、そういう一つテーマにしてもらったかどうかと思いました。

以上です。

○議長（太田佳晴君）

ぜひともこれをそういった資料にして、議会活動へ生かしてもらえればと思うし、そういったまた今後発言をちゃんとしていってもらえればいいと思います。これを参考にして。

ほかにどうでしょうか。

平口議員。

○5番（平口朋彦君）

先ほど言い忘れたのですが、毎回思うんですけれども、この議会報告会って我々議会にとってみればすごい大仕事なんですよ。1回やり切ると、やれやれようやく終わったというぐらいほっとするぐらいの一大イベントなんですけど、ほっとしちゃって反省会終わっちゃうと、本当に

やれやれで、しばらく議会報告会のことですばんと頭から消えて一年たって、そろそろやらなきゃと言って、準備し始めるのが何カ月前、2カ月前3カ月前ぐらいになりますよね。この準備期間というのをもうちょっと早目から準備をしていかないと、もちろん会場をおさえるのはぎりぎりにならないと2カ月前とかにならないとおさえられないのかもしれないんですけども、少なくとも次回の形、青写真というものは今回のこの反省会が終わったら、またもう次の2カ月前までずっと置いておくのではなくて、もう次は半年前から、今回の反省を踏まえた次の議会報告会プロジェクトを取り組んでいかないとだめだと思います。

本当に期間があいちゃって、ぶつ切り感が強いなというのを前回の4年間ですごく思いました。

○議長（太田佳晴君）

ありがとうございました。実は、この1年というのは改選後間もなかったものですから、通常だと6月に定例的にやっていたんですけども、去年は2回、それで秋に6回ということで、もう既にきょうの反省会を終われば次の議会報告会をどうするかということを考えないといけないものですから、今まさに平口議員に指摘してもらったように、もうすぐ、定例6月にやるならば、もう始めていかないといけないと思いますので、またよろしくをお願いします。

どうでしょうか、ほかに。

どうですか、よろしいですか。

それでは最後に、先ほどお話ししましたように、きょうの反省、また今後こういった議会報告会にしていったらというような皆さんからいろんなご意見いただきました。これをもとに議会運営委員会のほうで次の開催時期等も含めて素案をつくるようになると思います。そういった意味で、議運の委員長にきょうの反省会、総括的に一言お願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

○14番（大石和央君）

総括的にと言われてもですけども、いろいろご意見をいただきました。まさにこれまでやってきた議会報告会、過渡期に来ているのではないかということで、新たな議会報告会ということに、第2弾というような形でバージョンアップしていくというようなことだというふうに思います。そういった意味から、やはりこれまでの議会報告会のあり方を含めまして意見をいただいた中を参考にしまして、議運でまた今後の議会報告会について詰めていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（太田佳晴君）

ありがとうございました。

それでは、今議運の委員長から報告がありましたように、また議運の中で早急に次の議会報告会をどのようにするかということで検討していただきたいと思います。また、それをもって皆さんにはその都度報告して、よりよい議会報告会になるようにやっていきたいと思いますので、皆さんのご協力をよろしくをお願いします。

3 その他

○議長（太田佳晴君）

その他で事務局ありますか。

それでは以上で、本日の議員全員協会を終了します。お疲れさまでした。

〔午前 10時24分 閉会〕